

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	○ 見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	和歌山県の事業の窓口業務となるが、申請書類や申請者の条件確認等による受付時間がかかる。庁内外の照会事項も多く、事務効率が悪い。様々な広報を実施しているが、対象見込み者数より申請者数が少なく、他の広報の方法を模索する必要がある。対象者の申請に漏れないよう周知徹底が必要。
見直し・改善内容	業務の効率をよくするための見直し。様々な広報を実施しているが、対象見込み者数より申請者数が少なく、事業の浸透具合を見ながら、他の広報の方法を模索する必要がある。子育て支援課からこども家庭課に移管されてきたことにより、こども家庭課での手続きと併せて行うことができ、利便性が上がった。